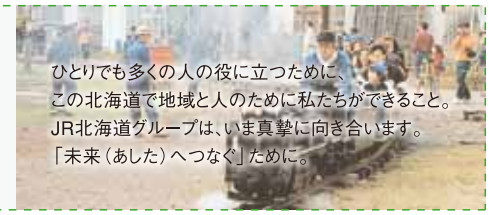
未来（あした）へつなぐ

【防災への取り組み】



ひとりでも多くの人の役に立つために、
この北海道で地域と人のために私たちができること。
JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。
「未来（あした）へつなぐ」ために。

文＝本間 吾里砂

三月末に「海抜表示板」の設置が完了！ マニュアルの見直しも進む津波対策 ～JR北海道～

JR北海道では、津波発生時に浸水の恐れがある駅舎などに、地盤の高さが一目でわかるよう、国土交通省の海抜表示シートの仕様に基づいて作成した「海抜表示板」の設置を進めてきました。これは、お客さまの安全確保を目的とした津波対策の一つで、今年三月末には自治体が設置した駅を除く、百十九駅への設置が完了。路線別に見ると、設置駅が最も多いのは室蘭線の三十四駅で、続いて函館線の三十一駅、日高線の二十八駅、根室線の二十五駅となっています。

津波浸水区域内や隣接する駅舎等に「海抜表示板」を設置。一目で地盤の高さがわかり、万が一のときに役に立つ。

JR発足以来、同社では津波警報発令時の対応について検討を重ねてきましたが、平成二十三年三月十一日に起こった東日本大震災をきっかけに、より具体的な津波対策の必要性を痛感。実際、震災時は北海道でも太平洋沿岸に大津波警報が発令され、函館駅周辺では津波により地上設備および車両が冠水しました。幸い、人的被害はまぬがれましたが、同社ではこのときの教訓から「津波対応マニュアル※」を平成二十四年度末に策定。その後、北海道防災会議地震火山対策部会地震専門委員会が、最大クラスの巨大な津波を想定し、公表した「北海道太平洋沿岸に係わる津波浸水予想図」と、関係自治体が策定・修正した「ハザードマップ」をもとに、随時マニュアルの見直し作業を行っています。

津波避難場所案内板。

また、「津波避難場所案内板」についても設置を推進。こちらは、平成二十五年度末時点で、百二十六カ所中十八カ所の設置が完了しました。残りの箇所へはハザードマップの更新状況に応じて設置する計画です。

昨年十月には、北海道が主催する防災訓練の一環として、津波避難訓練を室蘭線の白老駅において実施しました。同駅で列車が停車中、地震による激しい揺れが起こり、大津波警報が発令された想定のもと、駅員と列車乗務員がお客さまを白老町の避難場所へと誘導。実践的な訓練により、参加者は危機意識を持って取り組むことができたようです。

JR北海道では、今後も北海道や関係自治体と足並みをそろえ、防災体制の強化・充実を図っていきます。

設置対象駅の内訳表

線名	設置区間	駅数
根室線	上厚内～茶内	25
日高線	勇払～様似	28
函館線	函館～桔梗、姫川～二股、渡島砂原～森、余市～銭函	31
室蘭線	静狩～沼ノ端	34
江差線	七重浜～渡島鶴岡	11
釧網線	遠矢～釧路湿原、中斜里～網走	12
留萌線	留萌～増毛	9
宗谷線	南稚内～稚内	2
		152

※JR北海道による設置は119駅、関係自治体による設置は33駅。

※平成23年度末までに、500年間隔地震や三陸沖北部地震等により発生する津波を想定し、自治体が公表した「津波浸水予想図」および「ハザードマップ」に基づいて作成。